

#### (5) エンパワーメントプログラムの取組

「エンパワーメントプログラム」(Empowerment Program)は、カリフォルニア大学デービス校国際教育センターの藤田斉之氏がカリキュラムを作成し、ISA社が独自に開発したプログラムである。このプログラムでは、外国人大学生1人と日本の中高生5～6人が小グループでのディスカッションやプロジェクトへの取り組みを協働して行う。今年度も冬期休業中の12月24日から27日までの4日間、本校を会場に開催し、28名が参加した。

今年度のプログラムの内容として、第1日目はお互いの自己紹介から始まり、このプログラムで自分が成し遂げたいゴールについて話した。また、グループリーダーによるモデルプレゼンテーションを聞き、英語プレゼンテーションの基礎を学んだ。第2日目～第4日目には、「Positive Thinking について」、「My identity について」、「Leadership について」、「自分の将来の目標について」、「SDGs について」というテーマのもと、スモールグループディスカッションを行った。また、「地域に貢献するためのボランティアプランを考える」「フードロスについて」という2つのプロジェクトにも取り組んだ。第4日目の最終日には、4日間で学んだことを生かして、生徒一人一人によるプレゼンテーションを行った。

最初は緊張していた参加生徒も、グループディスカッションを行ったりプレゼンテーションの指導を受けたりすることによって、英語で堂々と討議するようになった。最終日の個人プレゼンテーションでは、多くの生徒が原稿を見ずに、ジェスチャーを用いながら見事なスピーチを行った。ただ自分の意見や主張を発表するだけでなく、聞き手にきちんと伝えたいという強い想いの表れであると考えられる。

このプログラムに参加した生徒の主な感想は、以下の通りである。

- ・ポジティブシンカーになれた。
- ・発言したいことを言葉にするのにつまづいてしまい、あまり発言できなかったが、グループのプレゼンテーションには積極的に案を出せたと思う。
- ・エンパワープログラムを通して自分の問題を改善することができ、新たな問題を見つけることができた。
- ・完璧を目指しすぎてしんどくなっている人も、参加して様々な経験をしたら、少し肩の力が抜けると思う。
- ・自分は英語が出来ないから参加しづらいと思わずにチャレンジしてほしいです。最初は自信を失うかもしれないが、そこで失った自信は最後に大きな自信になって戻ってきます。英語を楽しみたい、話したいという気持ちが大切だと感じました。ここでの経験は将来に大きく繋がってくると思います。

このプログラムに参加することによって、ほとんどの生徒は英語で自分の考えや思いを述べることに自信をもつことができたとともに、英語学習へのモチベーションを上げることができた。プログラムに参加した生徒の多くは、学校の授業でも積極的に英語を話したり、アドバンスコースや短期留学に応募したりするなど、このプログラムをきっかけにその後も様々なことに挑戦しようとする姿勢が見られる。本校教員も、あらためてディスカッションやプレゼンテーションなどのコミュニケーション活動の価値を再認識し、どのようにして生徒にそれらの能力を身につけさせていくか、教育活動全体を通して考えていきたい。

